平成 23 年 7 月 10 日自然観察会

盛夏の里山

森林インストラクター　金森　上野　渋谷　松崎

日本の真夏(盛夏)は高温多湿で、人間にとっては決して過ごしやすい時期ではない。しかし自然界の多くの動植物の活動が最盛期に入るのが盛夏。人間と自然が共存している里山では、夏には夏特有の多様な状況が見られる。

(ミンミンゼミ)

(クズの繁茂)

(ノウゼンカズラの花)

1　真夏の林下と暑さをしのぐ人々の工夫

真夏でも林下は涼しいのは誰もが知っていること。それでも夏の日常は暑い。里山の人々は暑さをしのぐために、窓によしずやすだれをかけ、土間に水うちをし、軒下に風鈴を飾り、そして井戸や川の水で冷やしたスイカやそうめんを食べる。

2　トンボ・せみ・大型甲虫の活動

真夏の里山の代表的な昆虫が、トンボ、せみ、大型甲虫(クワガタ・カブトムシ)。カブトムシ、クワガタなどはこどもたちの憧れの昆虫。トンボやせみを追って野山を飛び回るこどもたちを見るのも夏の風物詩。

3　クズ・ブタクサ・アズマネザサなどの繁茂

盛夏には時として成長力が強すぎて他の植物の成長を妨げるものもある。クズはその最たるもの。クズに巻きつかれた植物は大木でも枯れてしまうことがある。繁茂力の強い植物は里山の人間生活にも邪魔になるので下草刈や蔓きりなどして除去する。

4　里山で見られる盛夏の花々

春と同様、植物は夏もさまざまな花をつける。ノウゼンカズラ、朝顔やひまわりなど人が植えたものも鮮やかな色を見せるが、野山では山百合、ホタルブクロ、ギボウシなど可憐な花たちも見られる。

次回は 8 月 14 日(日) 13 時から　　テーマは「里山の生き物」です。